

# 4章 「振り返る」

日々の保育の中で、保育の評価をして改善点を明らかにするためにも、一人一人の子どもの理解を深めるためにも、保育の記録は欠かせません。

4章では、保育を「振り返る」記録の工夫により、園全体で実態や改善策を共有して保育の質の向上を目指し、「科学する心を育てる」保育に取り組んでいる園の実践を紹介しています。



## 1. 保育の振り返りや見通し、保育の工夫に繋がるウェブ図

子どもたちの『遊び』は、自由に発想し展開するもので、「こうあるべき」という決まりはなく、遊び方や結末を子どもたちが考えて楽しむ活動です。「科学する心」は、このように子どもたちが展開する『遊び』の中で育まれます。

P.32の深井こども園の事例は、昨年度は、継続している遊びに注目し、遊びの深まりを意識して記録を重ねてきた取り組みを振り返り、「継続していないと捉えていた遊びにも、様々な気付きや豊かな体験をする姿があり、無意識のうちに見逃していた」と、園内で協議し評価しました。この改善を図るために、様々な展開をする遊びや、その遊びを主体的に楽しみ、多様な体験をする子どものあるがままの姿を、「あそびの足跡」として記録し、ウェブ図に示す工夫をしています。一人一人の保育の振り返りに留まらず、ウェブ図により保育者間の共通理解が深まり、その後の展開を予想して保育を工夫することに繋がりました。

## 2. 子どもの体験の内容が明らかになる「遊びの深まりのプロセス図」

子どもが主体的に遊びを進めていく姿からは、多様な体験の内容はもちろん、経験してきたことが「力」となって今の遊びに活かされており、遊びの深まりと共に重ねられた体験を読み取ることができます。

P.34の都跡こども園の事例は、子どもたちが「もっと面白くしたい」という思いで夢中になって遊ぶ姿を追ってきました。そして、子どもが遊びを創り出していくプロセスに注目したことで、3歳から5歳児までの年齢ごとの特徴が見えてきました。その中から4歳児の特徴として、「小さな目標」をもつ姿や体験を読み取ることができます。遊びの深まりのプロセスを図にすることで、「科学する心」に結び付く体験を、園全体で共有することに繋がりました。

### <子どもや保護者が園生活の出来事を共有する「ドキュメンテーション」>

子どもの姿や遊びの様子を、写真とコメントで紙面にまとめて掲示する「ドキュメンテーション」。

子どもや保護者は、その掲示を見ながら遊びの様子や体験を振り返り、共有することができます。

保育者は保育を振り返り、子どもの体験や遊びの経過を理解し、今後の保育を考える手がかりを掴むことができます。

例えば、掲示物を見た保護者Aさんから、メロンの皮が届き、子どもたちは喜んでお礼を言い、続々とこの皮を色水作りに使いました。その後、保護者Bさんが、「飲める色水」としてマローブルーのハーブティーを子どもたちに教えてくれました。このように保育を振り返り可視化することで、保護者との連携に結び付けました。

[参考事例 P.27] 菜の花保育園



このように、保育メモや画像の記録、記憶を手がかりに記録をし、可視化をしたり焦点を当てて図にしたりすることは、保育者間や、保護者・子どもたちと保育者間で、遊びや体験の内容を共有することに繋がります。また、この作業を重ねて保育を「振り返る」ことは、子どもの理解を深め、今後の保育の見通しや予想をして保育の工夫をするという、保育の評価や改善にも繋がっています。ご紹介する2園は、「子どもたちが主体的に展開する遊びの足跡」や「遊びが深まるプロセス」を園で共有し、「科学する心」が育まれる保育に取り組んでいます。